c073-001-054

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University
京都大学基礎物理学研究所・湯川記念館史料室

「明治25年3月17日第3種郵便物認可 昭和24年2月17日国鉄特別扱認証第2号」

核否定し永続平和を

「科学者京都会議」で声明

学者、知識人ら「日本の知性」を集めて、六月三十日から東京・神田の学士会館で開かれていた「第三回科学者京都会議」は、二日夕、三日間の討議を終え「核兵器の否定と永続的な平和を実現する道だ。高度の合理性をもつ憲法前文の考え方を人類の常識としよう」との声明を発表した。この声明には、湯川秀樹京大教授、朝永振一郎日本学術会議会長、坂田昌一名大教授、大内兵衛、茅誠司両東大名誉教授、谷川徹三前法大総長ら二十二人が署名した。

この会議は、あらゆる分野の学者、作家らが軍縮や核兵器問題などを討議するもので、三十七年初めて京都で開かれた。故アインシュタイン博士やバートランド・ラッセル卿の呼びかけで始った「パグウォッシュ会議」の日本版といわれる。

こんどの会議では、湯川博士が「核兵器体系の現状」、朝永博士が「核抑止政策の矛盾」についてそれぞれ報告、とくに核兵器とその運搬手段の開発がもたらす戦争の脅威について、活発な意見をかわした。たまたまハノイ、ハイフォン地区の爆撃という事態にぶつかり、ベトナム戦争の重大性についても、真剣に討議したという。

声明文は全文二千五百字で、各国元首や学術団体に送るという。あらまし次の通り。

①核兵器体系はますます巨大化と多様化の道をたどりつつある。このときにアインシュタインの原則、すなわち「全体的破滅を避けるという目標は、他のあらゆる目標に優位せねばならぬ」ことを三たび確認する。

②核兵器と通常兵器とは、はっきりした違いがある。この区別をあいまいにするような言論が一部にあることは、憂慮にたえない。

③核兵器により戦争を抑止するという「力の均衡」の政策は、さまざまな核兵器の開発、核保有国の増大などをもたらし、とめどもない悪循環に陥っている。このままでは、全地球に各国の核兵器がいり乱れるというおそるべき事態になるだろう。

④核兵器にたよらず、逆にこれを否定する道を通じてのみ、永続する平和は実現しうる。

⑤永続する平和を創造し、新しい世界秩序をうち立てるためには、各国が相互信頼の立場をとる

「第三回科学者京都会議」で声明を発表する（前列左から）坂田、湯川、朝永各氏（東京・神田の学士会館で）

ことこそ現実的だ。この意味で「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われわれの安全と生存を保持しようと決意した」とある憲法前文には、高度の合理性と政治的英知が含まれている。

⑥科学者の国際的連帯を強め、その共同の努力により、平和の創造という人類の偉大な事業に積極的に寄与したい。